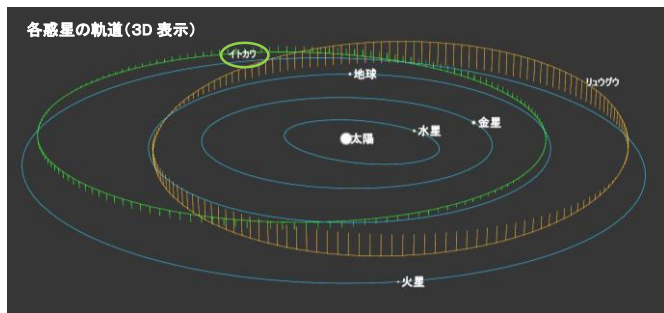


ジオスペース館だより

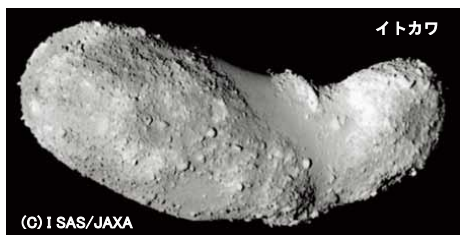
★地球接近小惑星イトカワ

小惑星探査機「はやぶさ」が探査した小惑星イトカワは、1998年に発見され、日本で最初にロケットを開発した糸川英夫博士に敬意を表し、イトカワと名付けられました。イトカワは、太陽から一番離れたときには火星の軌道のすぐ外側を通り、太陽に一番接近したときには地球の軌道の内側を通る軌道を回る地球接近小惑星です。小惑星は、太陽系ができた初期の情報を持っている天体だと考えられ、探査により、太陽系が誕生したころの様子が、分かるのではないかと期待されています。

「はやぶさ」の撮影により、イトカワは、2つの岩がくっついたような細長で、長さは535mほどの胸の上で貝を割るラッコのような形であると分かりました。自転周期は約12時間で、およそ1年半で太陽の周りを回っています。イトカワの表面は、岩の塊がとても多く、中央のくびれた部分にはレゴリス(砂の粒)が広がっていました。「はやぶさ」の持ち帰ったサンプルにより、イトカワはたくさんの岩石がゆるく結びついていて、内部にはたくさんの隙間があることが分かりました。46億年前の太陽系ができた初期に、直径20km以上のイトカワの元となった母天体ができ、他の天体と衝突してバラバラに砕け、その破片の一部が重力でくっついて、イトカワができたと考えられています。地球上に落下する隕石の多くは、イトカワのような岩石成分の多い小惑星が起源(元)であることも分かりました。

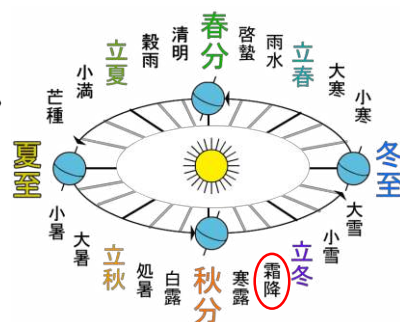


図はステラナビゲーター11を用いて作成、縦の線は軌道の傾斜(黄道面からの距離)を表示



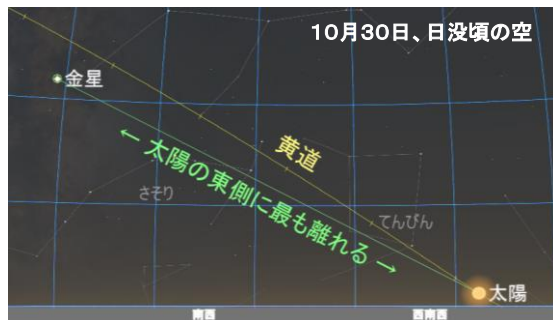
★ 二十四節気・10月23日は《霜降》

1年を24等分し、季節を表す二十四節気。10月下旬の節気は《霜降》と呼ばれ、毎年10月23日頃になります。《霜降》とは、霜が降り始める頃という意味で、秋が一段と深まり、朝晩の冷え込みが日増しに厳しくなる時期をいいます。残暑が厳しく実感がわきませんが、暦の上では、空気が冷えて朝露が霜に変わり、徐々に冬が近づく季節です。



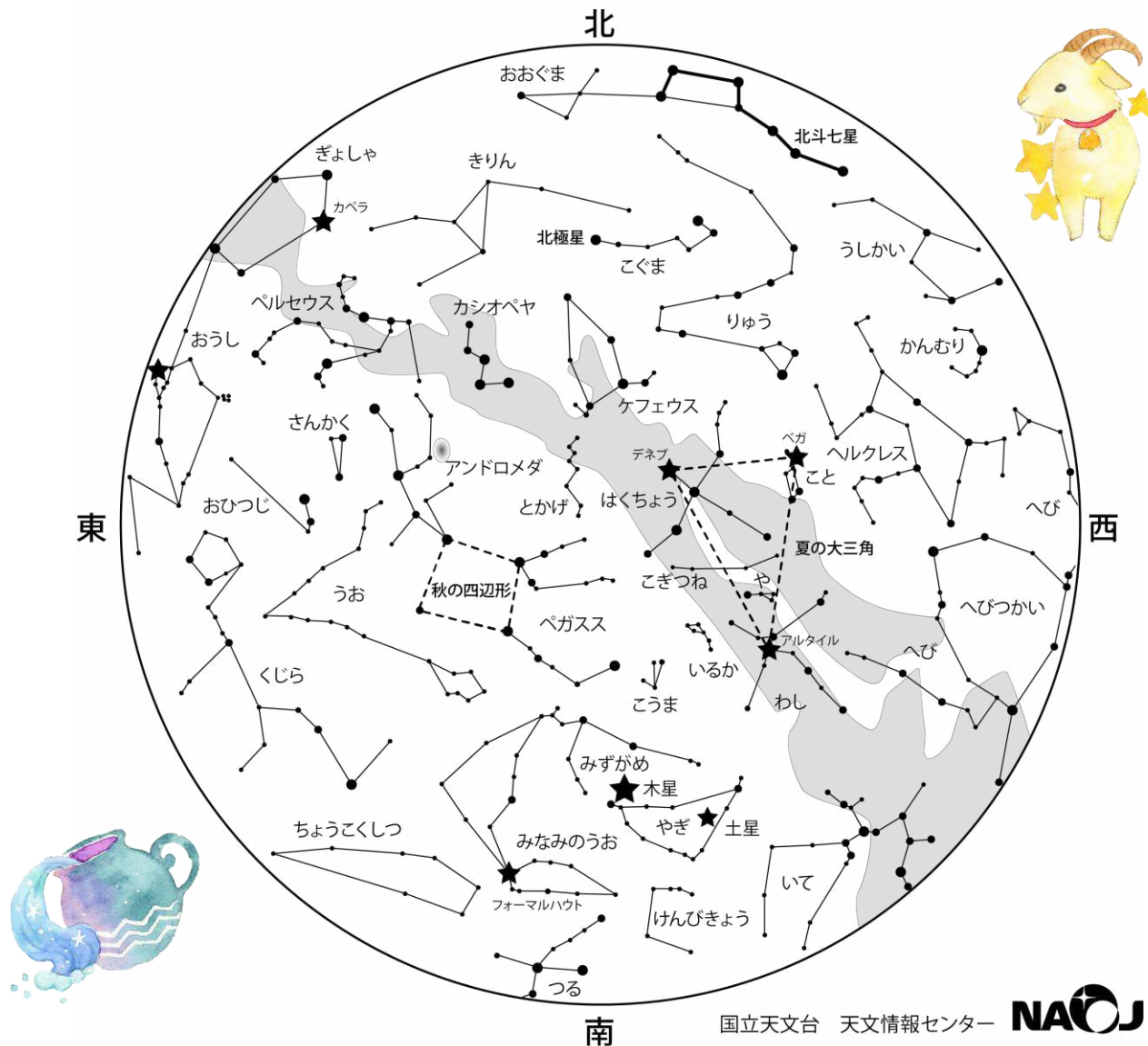
★ 10月30日に金星が東方最大離角

「宵の明星」として夕方西の空に輝いている金星ですが、10月30日に地球から見た見かけの位置が、太陽の東側に最も離れる《東方最大離角》となります。逆に太陽の西側に最も離れる《西方最大離角》は、明け方東の空で「明けの明星」の時に起こります。太陽から最も離れて見えるので、観察がしやすくなるはずですが、秋に《東方最大離角》を迎えると、日没時の金星の高度が低いため、太陽から最大限離れているにしても空の低い位置に見えます。



- ★ 10月のプラネタリウムの内容につきましては別刷りの「投影案内」をご覧ください ★
- ★ プラネタリウムのお休み 10/18(月)、20(水)、25(月)
- ★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

10月下旬午後8時頃の星空



★ 10月下旬の主な天文現象

15日(金)	月と木星が接近	23日(土)	霜降
18日(月)	後の月(十三夜)	25日(月)	水星が西方最大離角
20日(水)	○ 満月	29日(金)	☾ 下弦
21日(木)	オリオン座流星群が極大	30日(土)	金星が東方最大離角

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 10/15~31) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 10月21日(木)	[見やすさ ◎]	5:23	南西	~	5:30	北東
◇ 10月22日(金)	[見やすさ ◎]	4:37	南南西	~	4:43	東北東
◇ 10月23日(土)	[見やすさ ◎]	5:26	西	~	5:32	北北東
◇ 10月24日(日)	[見やすさ ◎]	4:41	西北西	~	4:44	北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。